

千厓文庫
文庫24
A 285



正大五 二大未 三小未 四小未 五小未 六小未 七小未 八小未 九小未 十小未 十一小未 十二小未 十三小未 十四小未 十五小未 十六小未 十七小未 十八小未 十九小未 二十小未 二十一小未 二十二小未 二十三小未 二十四小未 二十五小未 二十六小未 二十七小未 二十八小未 二十九小未 三十小未 三十一小未 三十二小未 三十三小未 三十四小未 三十五小未 三十六小未 三十七小未 三十八小未 三十九小未 四十小未 四十一小未 四十二小未 四十三小未 四十四小未 四十五小未 四十六小未 四十七小未 四十八小未 四十九小未 五十小未 五十一小未 五十二小未 五十三小未 五十四小未 五十五小未 五十六小未 五十七小未 五十八小未 五十九小未 六十小未 六十一小未 六十二小未 六十三小未 六十四小未 六十五小未 六十六小未 六十七小未 六十八小未 六十九小未 七十小未 七十一小未 七十二小未 七十三小未 七十四小未 七十五小未 七十六小未 七十七小未 七十八小未 七十九小未 八十小未 八十一小未 八十二小未 八十三小未 八十四小未 八十五小未 八十六小未 八十七小未 八十八小未 八十九小未 九十小未 九十一小未 九十二小未 九十三小未 九十四小未 九十五小未 九十六小未 九十七小未 九十八小未 九十九小未 一百小未

占考題言

四聲の占ハ調子トシテは運氣を考ヘ音トシテ
ハ吉凶証察今日他より人來ル其發語の一
言を得いろはト平上を入の四声を分ち其
日の十二支ニ合セ考ム也委ハ奥ニ記足音
の占也尚調子の考ハ未葉に記耳

四聲占考叙



天至而布音地受之而發聲是天地
自然之道理而一言之下察其肝膽
矣我朝以四声分千五十音蓋於四
聲存開閉之五品是配五行合十千

四聲占考

十二支以剋限別相生相剋考萬緒
吉凶毫厘無差矣是以私智非推焉
所以任天地之自然也近則喜怒哀
樂之音聲遠則從平上去入中之五聲
生出十二調子之弁考進退損益如

指掌矣閱之人莞尔而打膝頭可領
于時宝曆丙子仲呂月融明泚笔于
杏冥堂

凡例

一易書有て吉凶を占といふを擲筮筮
易書 占といふ
 法の道具を得て卦と起さざれば其の吉
法の道具を得て卦と起さざれば其の吉
 凶知事かじ故に此書一人の一言を以て
凶知事かじ故に此書一人の一言を以て
 事の可否を察し即時乃判此書
事の可否を察し即時乃判此書

四書

三

に頼べし

一凡笑を聞て樂を知り敬とありて人を察
 以類是又煙火にて火を知るを察り隔垣
 角分て牛ふる事を知るがごとし是
 事を知て所以を不知るの故は音と色

を分ち一万事を考は則風聲水音
 必あまを掌を見教がごとし

一万事万物皆天地の運氣による即氣
 候よる人よる音と調子よる顯る
 是天地万物一なるがゆかり故に十二調

子を悉の記一日こ乃考とん

一音曲を嗜む人の此十二調子の辨を以て祝

言出玄戀慕哀傷を工まはる一是四

聲の可否乃考へまは不用といふも十二調

子れ悉解はふとぬに音曲名人乃

名紙得と欲せばは十二調子を以て謡乃

口傳書ると合也考べ

一此書ハ士農工商の可用の書なり

士の進退動静を考へ農の天時ノ吉

凶を考へ工の方角地面を辨へ商家の

日く賣買利淫を得家の工夫此する小
 限るる一

四聲占考

目錄

- 一 音の天に生じたる之事 圖
- 一 音の地み成まるる之事 圖
- 一 音と聲とを考換之事

一 いろはとて四聲の支

一 人事之考ぢんと失しやうのおえり

一 四聲やひ為五調ごう子し之辨べん義ぎ圖ず

一 五調子より十二調子を生ずるの事

一 十二調子べんの辨

一 十二調子より日ころ吉凶之事

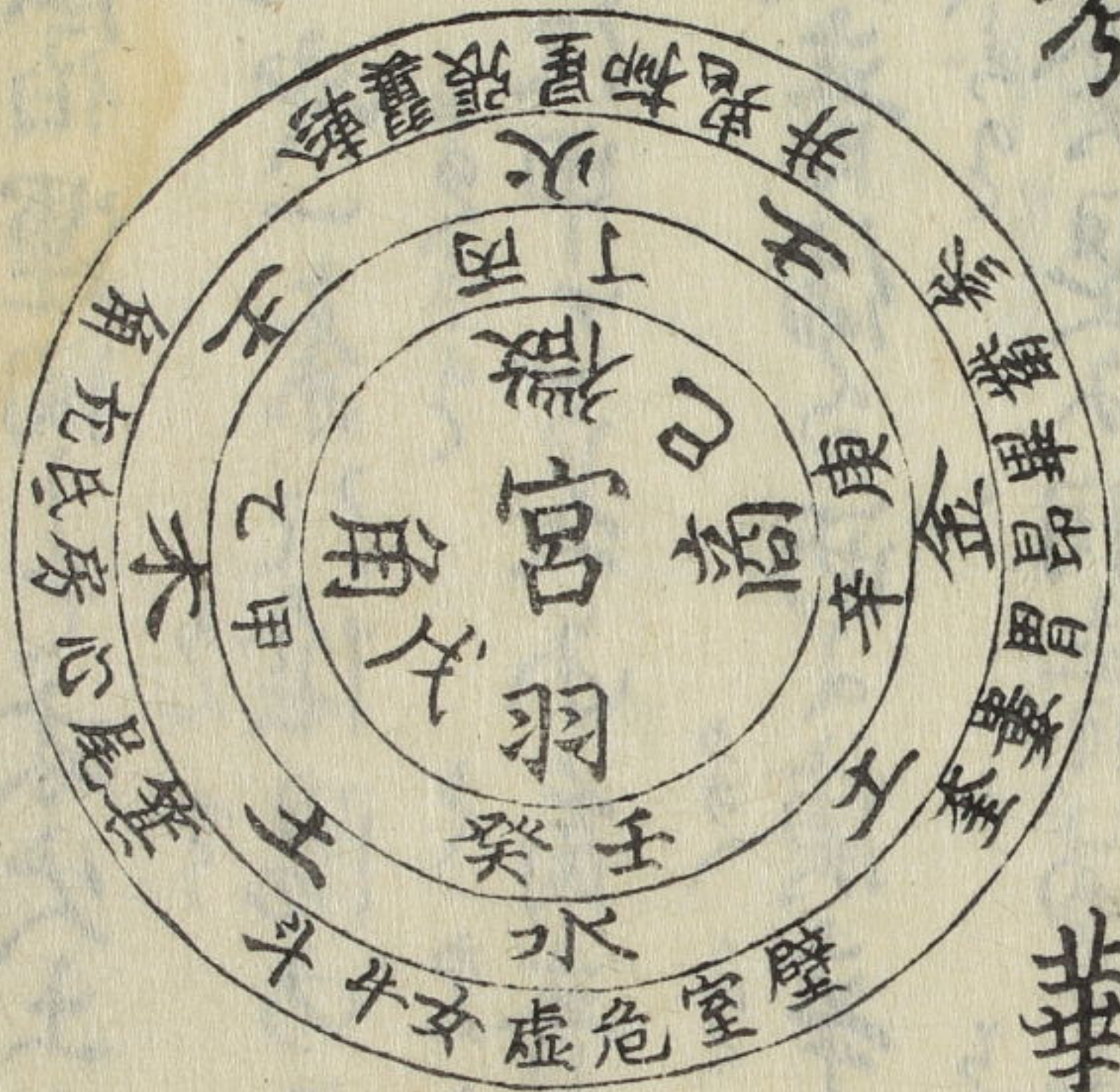
一 十二調子いよりとて天時あまときの考めんどく

一 十二調子あしんとて一切進退しんたい動靜どうじやう之事

藤

四聲と考

音おん天てん生せいのえののえのの図ず



華陽散人著

二十八宿

五行

十干

五音

四聲と考

七

藤

庫

天の二十八宿運回して木火土金水の性
しやうんき
 五移の五を也一系に陰陽の二あり故ふ十干
ごい ごさ かんき ごふ ごん
 こなる東に甲乙辰未南音備り西
あつち あつち あつち あつち
 丁未未徵音備り西庚辛辰未南音備
あつち あつち あつち あつち
 未北に壬癸辰未羽音備り中央未戌巳辰
あつち あつち あつち あつち

に宮音備れ



四書出類

一

聲^{こゑ}の地^ち成^{なり}之^の圖^ず



十二支
四季
四聲
五聲

地^ちに位^ゐとる十二支^{じふにし}寅^{いん}を春^{はる}の始^{はじ}と卯^{みづ}と未^みの
 終^{はつ}と巳^しを夏^{なつ}の始^{はじ}と午^うを終^{はつ}と申^{しん}を秋^{あき}
 の始^{はじ}と酉^うを終^{はつ}と戌^{しゅ}と亥^{がい}を冬^{ふゆ}の始^{はじ}と子^こを
 終^{はつ}と辰^{ちん}未^み辰^{ちん}戌^{しゅ}を土用^{どよう}とと是^{こゝ}中^{ちゆう}声^{せい}めして
 平^{へい}と去^{きょ}入^{にゅう}の本^{ほん}也^{なり}平^{へい}の吟^{いん}直^{ちやく}也^{なり}上^{じやう}の笑^{せう}聲^{せい}の末^{まつ}

とふ去の哭末下入の呻聲の末はするあ
あひ さい さい さい さい さい
 中聲の歌声中み位して平と去入の四声を
ちゆう せう せう せう せう せう
 分呼笑哭呻と華子根えや此のわく天のこ
ぶん けつ せう せう せう せう
 十八宿より音をせ生ト地の十二より聲を
じゅうはち じゅうに せい
 なる鳥獸虫魚魚の五音 四声見る 風声水音よむすて
なる じゆう じゆう じゆう じゆう

天地合一の音声よ洩るは思ひあれが
てん ち ぐん せい
 言ある言のく欲るまじごとと聲と音とは天地
ことば ことば ことば ことば
 自然の氣感なれば自然の氣象を考まじが
じぜん の き かん じぜん の き しょう
 則風西雷電地震辰虹霓万事を察せ
すなわち ふう せい だん じ ちん こん ねい ばん じ
 ごとくふあはしは故に人事を考んと欲せば
ごとく ふう あは し は 故 に じん じ を 考 ん と 欲 せ ば

人の云出た初ついでの一字ひと得其日とらの十二ふたと合あ
 せ考くわふげしぬくくのこ西せい日にちよ人ひと来きたて今日けふ日にちの
 玉たまも何なにと同どうべ別べつ今日けふ日にちのこころ字じをを得とらいろ
 はの中ちゅうよよとこの字じの上じょう聲せいををり即すなはちと聲せいの中ちゅう
 よと西せい日にちととるるるにに立た身み出で世よありありるるどどのの上じょう

数かず々々糸いとあり餘よのの準じゆん之の可か占せん日にち是こゝろ人ひと事ことの考かんが
 れ部ぶあり

いろはいのろ四し聲せいのの事こと
 去きょ 去きょ 平へい 去きょ 入にゅう 上じやう
 い ろ は に ほ へ せ

四声の平声 上声
 去声 入声 多り

ら ^平	よ ^去	ち ^去
む ^入	た ^平	り ^去
う ^入	れ ^上	ぬ ^入
ぬ ^去	ろ ^去	る ^入
の ^上	つ ^入	を ^平
れ ^平	ぬ ^上	わ ^平
く ^入	な ^平	わ ^平

あ ^上	あ ^平	や ^平
い ^去	さ ^平	ま ^平
も ^入	き ^去	け ^上
せ ^上	ゆ ^入	ふ ^入
す ^入	ち ^上	こ ^上
	み ^去	い ^上
	し ^去	て ^上

四書

十一

丁附

平聲 十四丁

上聲 二十丁

去聲 二十五丁

入聲 三十二丁

人事之部

平聲

はをわかたなられやま
あさ

万事兆あきども未發音あり

△此聲子の日ふある時入位不に付なる有。

四書集注

十四

旅^{たび}之^の他^た行^ぎを^を懐^たべ^い。水^{みづ}難^{がた}有^り。寶^{たから}貝^{かい}令^を銀^{ぎん}よ
付^つか^か中^{ちゆう}と^と有^あり。物^{もの}お^おと^と進^{すす}む^むこ^こと^と幽^{ゆう}し。
末^{すえ}の^の吉^{きち}也^{なり}

△此^{こゝ}聲^{こゝろ}丑^{うし}の^の日^ひな^なれ^れば^ば諸^{しよ}事^じ人^{にん}よ^よ信^{しん}て^て念^{ねん}と
入^い海^{かい}。人^{ひと}の^の迷^{まよ}は^はる^るは^はと^と有^あり。身^みを^を失^しは^はる^るこ^こと

皆^{みな}幽^{ゆう}し。万^ま事^じな^なま^まる^る簡^{かん}ら^らづ^づの^の有^ある^るべ^べし^し情^{じやう}
を^を。始^{はじめ}は^は若^{わか}者^{しや}あり^り。終^{つひ}は^は思^しひ^ひの^のお^おと^と
成^なる^るべ^べし。心^{こゝろ}よ^よ乾^かあ^ある^るこ^こと^とい^いふ^ふこ^こと^と
あり^り。急^{いそ}に^に如^{ごと}く^く。失^し物^{もの}こ^こる^るき^き處^{ところ}は^は有^あり
△此^{こゝ}聲^{こゝろ}寅^{とら}の^の日^ひな^なれ^れば^ば立^た身^{しん}出^{しゅ}世^せあ^ある^るべ^べし。

財寶乃るや有り。病人去ぬ。待人
 来之。婚礼吉。女の男を思ふ有り。凡色
 情あり。住所に苦勞あり。失物果之
 歩之。失物本の器乃内小有

△卯乃日なまじば諸事慎べし福多し

と情あり。女は付てなると有り。婚礼凶
 悪人又阻らば難かに遇ふとあり。情が
 相澄ぬふふと有。新望に姑あり。失物
 蓋なきの器は有

△辰の日なれは印書の類は付若勞する

大とあり情つひづひ。性せい急きゆうふふして事ことを傷やぶこ
 とを情せいをを。人ひとと中ちゆう絶てつと有あべべ。一
 人ひとみ好こう嫌けんあるあべべ。一。柔じゆう和わなれれども情せい
 怒ぬとるとこと成なりぎぎ。一。任にん取とに付つるる兼けん
 て安やすめめるる。願がん望ぼうに好こう有あり。病びやう人ひと凶きゆう。

待人たいにんハハききここるる。失物しつぶつ草中くさちゆうに有あり。災さい難なん
 又また遇ぐと有ありるも人ひとは恥ちららるる。一。旅りょめめせせりり敬けい
 ことあり。人ひとの頭かぶととなるるべべ。一
 △己おのれの日ひなれれば工く夫ふう不ふ定ぢやう迷まいふ心こころあり。事こと
 有あり。相あ談だん事こと調てうのみ。寵ちゆう愛あいのことありるべべ。

婿むこ礼れい養やう子しのこと有あり。女むすめは付つてなやま
あり。貴き人ひとは迫せまげくまり。失しつ物ぶつ出でがじ

△午うまの日ひなれば猪しゆ鬚すあはとあり。病やま人ひと
事こと苦くし。幸しゆ苦くあり。諸しよ事じ同どうらざいふ分ぶん別べつ
不ふ定ぢやうく。願ねん望ぼうのこと調てうがく却かへて難なん温んあり。

失しつ物ぶつととく出でること。當たう座ざのこと輕かうととくに
用もちいてこと。故こ郷かうは帰かへること

△未みの日ひならば諸しよ事じ過あまり難温んありこと。
信しん不ふと難なんくまり。財さい實じつに付つ苦くじん。短たん慮りよ
をしてこと。無む理り非ひ道どうのことくまり難温んありこと。

古事類聚

一万事始の凶後の意。失物方器の用ニ
有る。

△申の日なれば分別定満するあり。
急なること凶。新に物を始に造。了る
ちぐらふと事を傷み情づ。物とらんと

と有り。物をむかひ仕へるは凶。束の
意。失物清は迎くあり

△酉の日なれば一旦の凶なれども終は恩の儘
なり。婿れ養子吉是も初凶後の吉也。
何事み付若者あり。失物出る。結人の来

四ノ月五号

十一

短氣を疾つむべし。病ぢの治ぢと

△成なの日ひなれば万ばん事じ調ていて立た身み出い世せあり。諸しよ

人ひとに親お深こし。人ひとに取と立たらまま幸さいあり。

病人びやうじん凶き之し。短氣たんき疾つむべし。失物しつぶつ器きに有あ

△亥えの日ひなれば人ひとの知ちざる苦くあり。乾かん望ぼう

叶つがし。親お類れい朋友ともに付つ苦く学がくあり。

令しん銀ぎんみ換か失しつ有あり。失物しつぶつ令しん物ぶつは近ちかく有あ

上聲 トウシウ 一れねめのけこらて

めえせ

万事盛ばんじとさうせいにして動うごある聲こゑなり

△子の日よなれば諸事しよじも廣ひろくせばさへ事ことの若わかく若多たし後のちの吉よき也。何事なんじも調しらへぬ

ありあり。剛かう氣きをあげば凶あやきなり。人にひとにはくた
吉よき也。失物しつぶつ不出で

△丑うしの日ひなれば立身たてみ出世しゅっせ有り。位ち高たかく若く
勞ろうあり。婚こんれ吉よき也。病人びやうじん凶あや也。命いのちを敬やぶるく
なり。失物しつぶつ難がた出で

△寅の日なれば時を未至待て幸あり。
 諸事急を急いぬ徐ふして吉也。水難に逢
 ことあり。失物早出。位處又若勞あり。
 盜賊乃難を怯べし
 △卯の日なれば争論を怯るべし。疑を去

ことあり。諸事調いごとし。心身安めれば
 盜難を防ぐべし。失物器小有
 △辰の日なれば損失あり。火いざる警有
 公事訟訟争論を怯べし。虚言あり。
 貴物を得たり。失物竈に迫く有

△巳の日なれば佳處は苦勞有り。姑ハ吉後
 凶。公あつらひ。小事は宜事有り。旅行悪
 一 波難に逢ことあり。病人凶也。困窮流
 浪とることあり。失物不出

△午の日なれば親望叶ふ。一。婿礼者之。

病人凶之。令銀財宝を得る之。象論有
 信一。離別の人は逢親しとあり。人女
 悪あまあり。猪行凶之。婦人は付なやと
 あり。失物出やじし

△未の日なれば立身すべし。一。病人重し。

侍人の来り。佐處に苦勞あり。失物
 下に有り。旅立或は宿替士足。行者の
 願望叶ふ。心中安か。但し此身に
 △申の日さるるば願望叶ふ迄のことあり。
 中あき人と申さるる又申絶の人よ逢ふ

とあり。佐處替目さるるは身よ逢ふ
 病人也。失物遷出

△酉の日さるる人と申絶さるるはとあり。
 女難を更と有候へ。始に困窮し
 後の立身と有。失物出ぬ。願望と利

根を以てとどむる時と待て者也

△成の日なれん思ふこと調ひぬ。忠

孝又人のくちなる事とす。我為に

まごぬ。諸事仕換むることあり。願望

いかに。失物返出。比自時を待て

△亥の日なれん事とありて。又やとぬ

とあり。物ふ畏あることあり。諸事壞と有

候べし。位處に若く者。失物いでど。短

きを候べし。奉公吉

去聲

いろにちりよろお

きこし

万事遂として殊成就聲なり

△子の日なれば振袖の志あるべし。ふは

い初は者也。願望調のじ後小若是。位知

又付若方あり。寤具散分貝若あり。病人

重し又腰下の病有り。諸事人よ侍て言

失おひえごし

△五れ日なれは諸事早くするに吉也。嫁礼

士も生産安し。物ぶらに付難儀を

遁^{のう}ありとあり。損^{そん}失^{しつ}あり。を^を方^{かた}に^に遁^{のう}ふ
し^しあり。諸^{しよ}事^じ情^{じやう}べし。我^{わが}為^{ため}ふる人^{ひと}と
得^{とく}こ。失^{しつ}物^{ぶつ}地^ち又^{また}付^つ有^あ

△寅^{いん}の日^ひなれば^{なれば}故^{ゆゑ}なく^{なく}出^でて^て不^ふ敵^{てき}又^{また}有^ある^る也^{なり}
落^{おち}人^{ひと}有^あり。願^{ねが}望^{ぼう}叶^はひ^ひこ^こし。位^ゐ處^こを^を去^さ

て^て者^{もの}也^{なり}。難^{なん}病^{びやう}有^ある^る或^{ある}ハ^ハ恠^{あやま}こ^こと^とあり。失^{しつ}物^{ぶつ}
遲^{おそ}出^でる^る。次^{つぎ}身^みに^に進^{すす}こ^こ又^{また}ハ^ハ羨^{うらや}慕^ほる^る心^{こころ}あり。
婚^{くわん}禮^{らい}ハ^ハ又^{また}合^あて^て可^よき^き。色^{しき}情^{じやう}あり

△卯^うの日^ひなれば^{なれば}先^{まづ}は^は凶^{きやう}後^ごハ^ハ吉^{きち}也^{なり}。常^{つね}人^{ひと}ハ^ハ
允^{いん}凶^{きやう}一^{いつ}。罷^{ばい}を^を受^うこ^こと^とあり^{あり}情^{じやう}べし。女^{にょ}難^{なん}

あり。親類朋友に別とあるべし。學者しやうが
 出家しゅつがなどいふ多岐たきと吉也。婚こんれ養やしやう子し
 調てういいぐぐ。財さい寶ぼうに付つ換かん失しつあり。口く舌ぜつ又またい
 憂ういありあり怯けつべし。失しつ抱ぼう野の又また迫せつ者者

△辰の日なれば物と柔和しては剛氣

い凶也。外がより難なん混こん云うけるく事ことあり。婚こんれ
 吉也。病びやう人にん凶也。失しつ物ぶつんんぐぐ。熱ねつと苦く勞らう者者。
 人にんに取とらられて安あん居きとる者

△己の日なれば諸事吉るれども思おもの外の外乃
 事こと有ありあり。相あいい調てうべし。人にんより

尊ぶ。伯處うら替かとあり。人に迷まようや、
 ちとわう人にかんご考べし。女に付つなやと有
 信しんべし。始はじめ吉後きちご函はこ諸事しよじ信しんて喜よろこぶ。失物しつぶつ返かへ
 出いり

△午の日なれば諸事しよじ速すみ小調せうてういいががし。伯后はくご

いなる有り。心中しんちゆうにあいありてき氣き鬱ふさとふす。
 まま婦ふ安あややしし時とき言ことをを信しんて喜よろこぶ。失物しつぶつ
 不ふ出いで

△未の日なれば始はじめちち敬けいるるきき後ごのの信しんぶぶとと成なるる。
 進しんむむととあり。大だいささなるる望ぼうあり。戀こひ慕ぼ

の心あり。行者の至る来不者の来ふん
失物あるに有

△申の日なれば悪事身と離る吉然とた
換失あり。又難の来ふとあり。他國より
取結ぶとさわりあり。安かれば苦勞あり。

宿が空し。望遠成ぐし。失物早出

△酉の日なれば諸事滞るし。他國を
よの便を待たずん。又難あり信るし。諸
事子廣するに由し。願望叶ふし。失物
并ふ近く有

△成の日なれば万々改て新しくとれば吉
 るり。願望障は初ハ翹がごとく末は成
 就とる。失物為器乃内に有り。位處若
 劣有又の普請の世話のどく。女難あり
 怯べー。立身出世あり。運一。争論怯

べー

△亥の日なれば新よ亥を始は換失あり
 福を得べー。又友を得ふ。争論を怯し
 位處み付口舌あり。失物出がごとく。

入聲

ほさぬるつじうく
ふゆもす

万事^{ばんじ}地に収^とりて閉^とる聲^{こゑ}あり

△子の目^{こゝろ}なれば操^{さう}く愛^{あい}動^{どう}とるあり。

願^{ねが}望^{ぼう}障^{さう}あり。旅^{りょ}行^{こう}あり。怒^{いか}ゆ人物^{にぶつ}のやれ

ふしと有り。常^{じょう}人^{にん}の凶^{きよう}位^ゐ官^{くわん}乃^な人^{にん}の士^し見^{けん}。失^{しつ}物^{ぶつ}

暗^{くら}處^{じよ}に有^あ

△丑^{うし}の日^ひなれば以^いて身^み小^{せう}吉^{きち}と名^なん。財^{ざい}家^かに換^か

あり。難^{なん}深^{しん}あねどもたどけらる事^{こと}あり。

路^じみ送^{そう}ふしと有^あ。諸^{しよ}事^じの調^{てう}い半^{はん}の不^ふ調^{てう}。

失ものいごと

△寅の日なれば世話多し。統どもさす。

とどく。病人あり。親類に換あり。

諸事徐にことごとし吉也。初ハ凶後ハ吉なり。

失物の遅出る

△卯の日なれば害難換失あり。信あり。

付若者有。失物悪の門有。他形より有。

婚礼善子宜し

△辰の日なれば外より取らむと教諭す。

とどく。婚礼善子士也。他國より降る。

あつ有り。病人ぬく。老方より便あり。

失物出がじ

△巳の日なまじり物を始し不吉也。住處
に若学有。諸事急よとれぬく。一人の
簡よととるこぬし。病半者也。乾望計

がじ。失物ぬぬし

△午の日なれば短氣を傷ぐ。始ぬ後者
あり。口論争ひ公事許訟などの障有
候あはしむ。相談調吉也。失物早出
△未の日なれば後居を替日にしむ。こゑも出

世あり。人と申絶の事とあり後の吉あり。
 旅行み吉し。短氣と怯じぐ。思事叶あむ
 但一返し。心を欲とれぬぬふり宜し。失
 物いづべ

△申の日なれハ諸事心の中になやむ有

。位處不安物ごと吾勞多ありぐ。婚
 礼宜し。病人の凶也。死望急しは時
 かに後ふ吉也。色情のなやむ有り。生養
 安し。失物早出

△酉の日なれハ諸事心のおとくぬかし

常人の者也。主婦は付口音有ぐ。始に
 吾等とねども終ふにそのごとく成ぐ。
 病難を怯む。後に榮之。失物水小
 近者

△成の日なれり人小愛やもあえ。相談調

ふ。身心苦勞あり。心は憂とてうら
 志て乾望す。婚れ吉也。病人出之。初
 函後吉也。失物難出

△亥の日なれば家を殺とてなる。方
 事調小。婚れ出吉也。待人早来る。失物

出於心。立身之道

人事之部終

日吉凶災時考
一切進退動靜考
四聲為五
調子之圖



四聲為五調子之辨

平聲ハ觸調子トシテハ双調上聲ハ止調子

トシテハ黃鐘去声ハ剛調子トシテハ平調ハ

聲ハ舒調子トシテハ盤涉中聲ハ四聲ハ旺す

調子トシテハ一越調是四聲ハ調子の根なること

を知らしむ

五調子より十二調子を生じざる事

双調の内より鳥鐘調出る黃鐘調より鸞鳥

鏡調出る平調より勝絲調下五調出る盤

涉調より神仙調ト云調出る一越調より

斷金調也

右十二調子乃名目なり

十二調子之辨

盤涉調ハ聲乃底に強きなりと有神仙

調ハ聲乃上強く底は物なり一鸞鏡調ハ

聲強く遠音有双調ハ一言に其事なる

がわきと云是も聲強し鳥鐘調ハ聲成

に威強し一五調ハ聲不弱しと云ひく

黄鐘調ハ聲の底弱くと云ふ一越調ハ

聲の底弱く口品ありて面白と云断令調

ハ聲ノ底弱クして上堅一平調ハ聲弱ト
 て内ぢいある極に一言にありありあり下去調
 ハ聲弱ク一言づ息の盡み如く勝絶調ハ声
 弱けどもとておらほく声なり此十一調
 子を殊聴かて言り初の字と合せ可考

たしん

人未て只今の運氣如何と同ハ則只今の
 たの字を得いろはの中たの字ハ平聲なり
 又調子ハ身ハ聲強ク遠なるあり是鏡寫
 鏡調也則平聲ノ鏡寫鏡調をみるハ其日

四書

四書

ハ吉王時ハ温誌事と象ハ進ヒ餘準之可考
 右十二調子ハ聽分極秘術ナドモ愛小記
 と不可勿心

平聲

盤涉調 勝絶調 半吉 風 少進

鸞鳥鏡調 双調 吉 温 進

神仙調 鳧鐘調 半凶 雷 太進

上無調 黄鐘調 吉 虹 少動

一越調 下無調 半凶 震 進

断金調 平調 凶 電 右退

上聲

盤涉調

勝絕調

凶

雨

太靜

鸞鏡調

双調

半吉

虹

少動

神仙調

鳧鐘調

半凶

雲

少休

上無調

黃鐘調

吉

熱

動

一越調

下無調

吉

霧

少居

斷金調

平調

半凶

電

太動

去聲

盤涉調

勝絕調

吉

霜

少靜

神仙調

鳧鐘調

半吉

晴

少退

入聲	一越調	斷金調	鸞鏡調	上無調
	下無調	平調	双調	黃鐘調
	半吉	吉	半凶	凶
	兩	冷	電	電
	少退	退	太退	太動

盤涉調	神仙調	上無調	一越調	斷令調
勝絕調	鳧鐘調	黃鐘調	下無調	平調
吉	凶	半凶	凶	半吉
寒	嵐	兩	曇	霜
靜	太休	太靜	太居	少靜

鸞鏡調 双調 吉 風 少進

右十二調子とて諸事に合せ占べし故ふを少
之進退動静とて知し凡人乃音声よか
らど風琴水音一切の物れ四考と調子を聞
て可考

跋

此書ハ先生於崎港傳授ス日々用テ疑心既
亡ビ信ヲ存シテ長生ス於茲門人某梓ニ鏝メ
諸人日用彝倫ノタメ弘ク世ニ行レシコトヲ希
コト年久シ然ドモ先生嘗テ不忽故曰両心



四士聲と出夫

二人ヲ得ズ一心以テ万人ヲ得ルコトハ辟ハ樹ヲ
 伐テ本ヲ引ニ枝葉從ガ如シ万人ノ和是ニ不
 先生書ヲ尊フコトヲ深ク感ノ漸許ス以テ
 後世ノタメニ公ニ是至宝タルベシト介云
 寶曆六丙子歲仲呂 門人惟齊 識

臨玄堂藏版



寶曆六丙子霜月出板

大坂博労町心斎橋筋

西田屋利兵衛

發行春林

同

清水町三休橋筋

本屋又兵衛

